

2008年度決算説明会

2009年4月30日

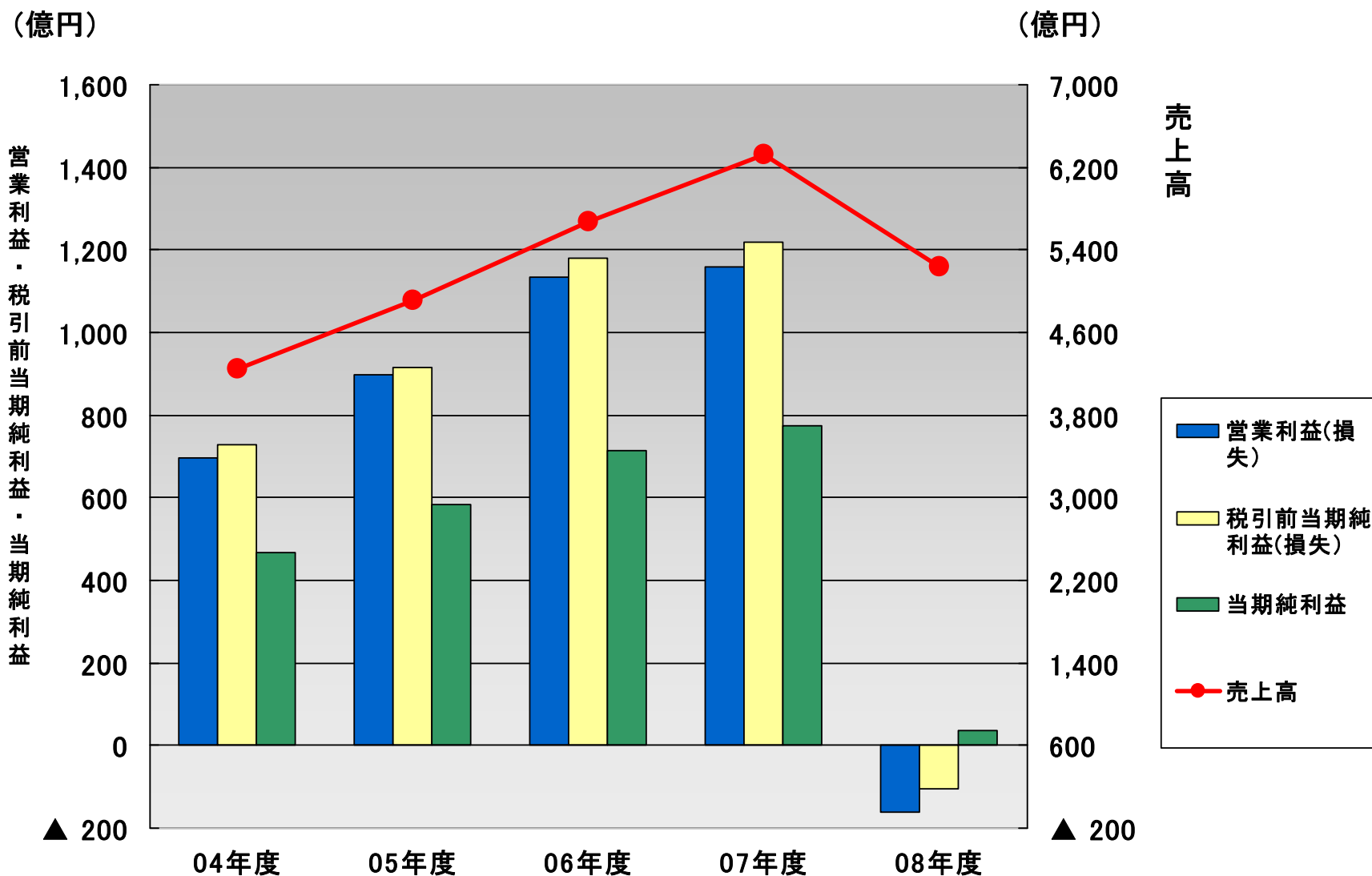
株式会社村田製作所



1. 2008年度 業績概要

2008年4月～2009年3月
連結累計期間

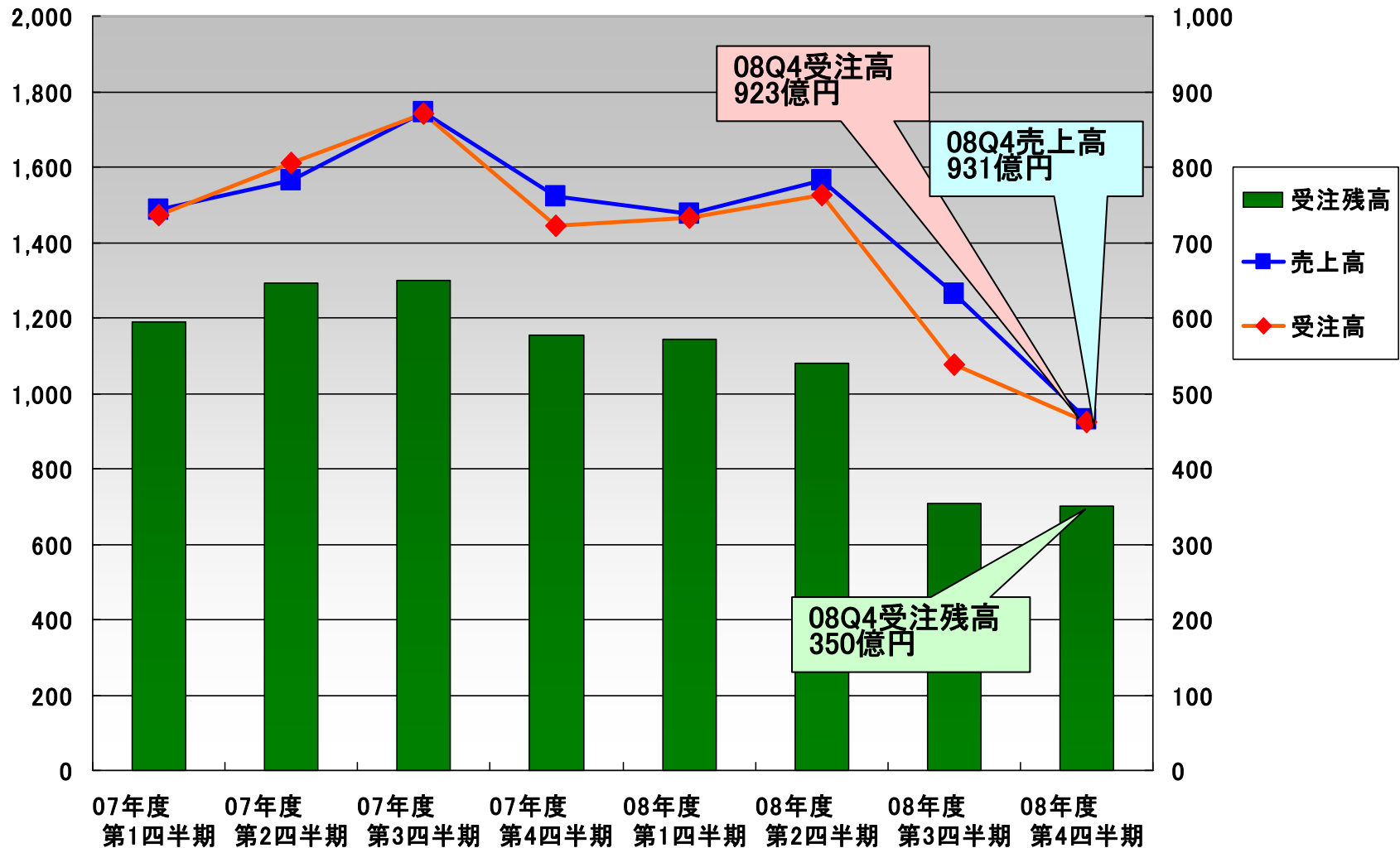
当期の業績概要



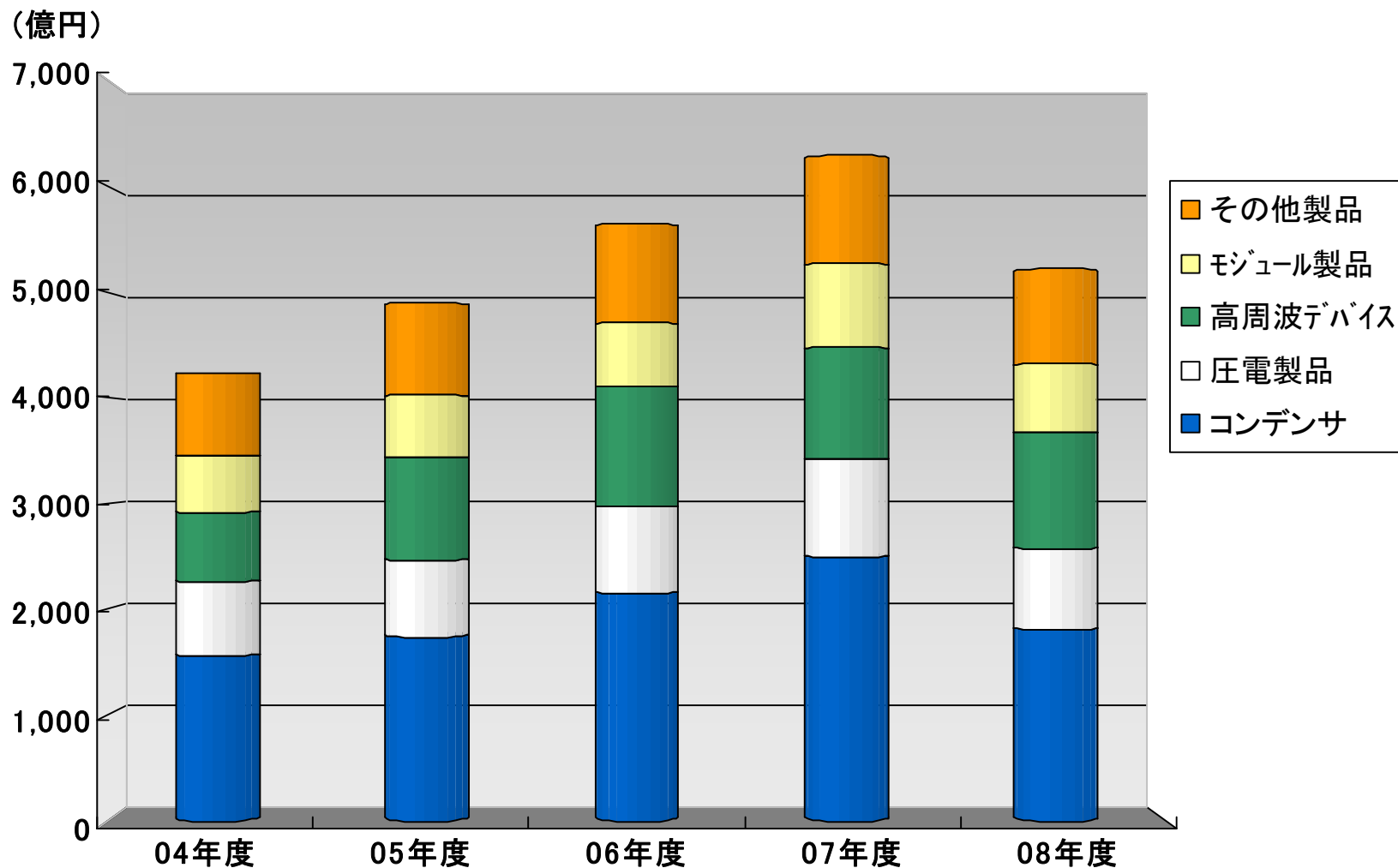
四半期の売上・受注・注残推移

売上高・受注高(億円)

受注残高(億円)



製品別売上高推移



製品別売上高(2008年度通期)

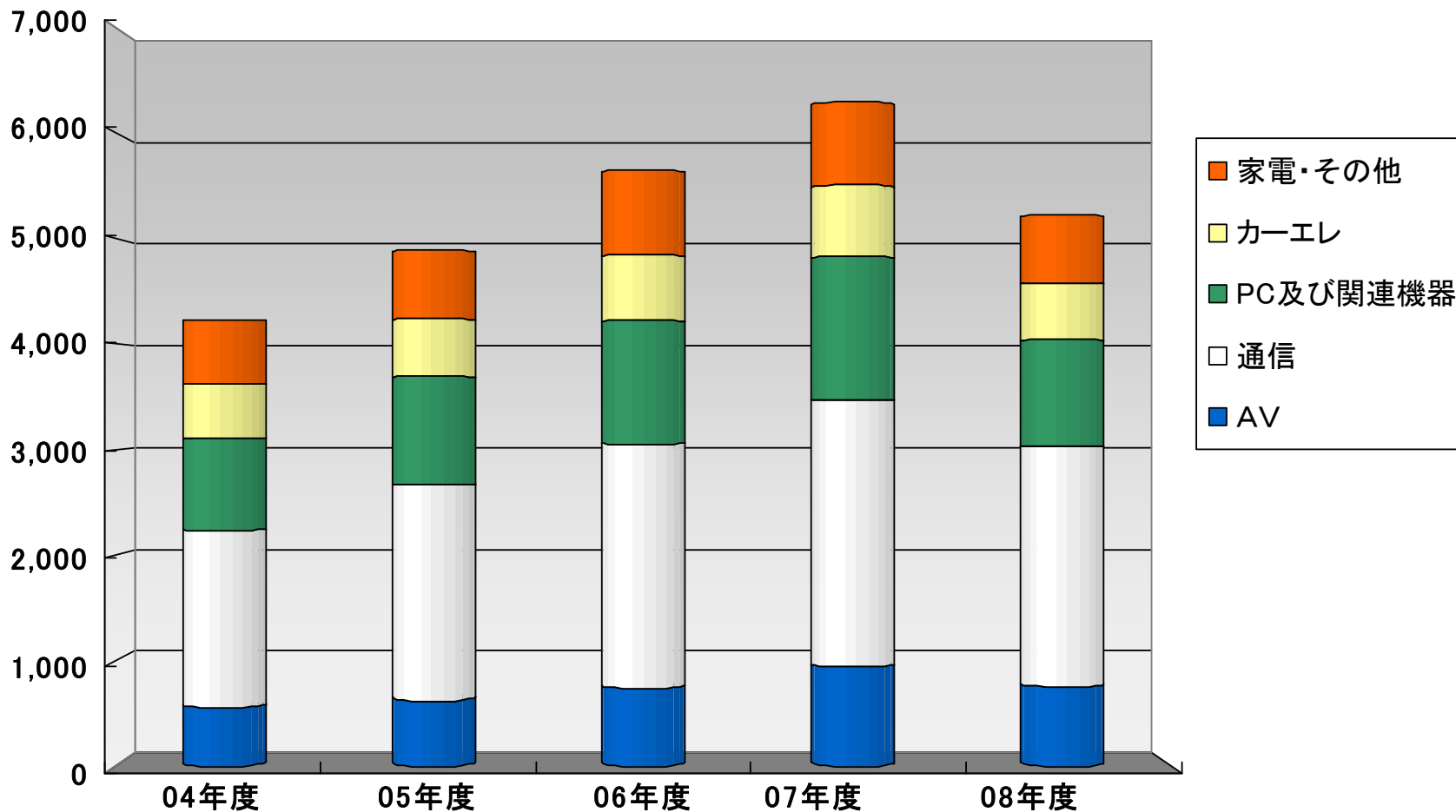
	2007年度 通期		2008年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	2,494	39.6	1,806	34.6	▲688	▲27.6
圧電製品	927	14.7	763	14.6	▲164	▲17.7
高周波デバイス	1,054	16.7	1,103	21.1	+48	+4.6
モジュール製品	791	12.6	649	12.5	▲142	▲17.9
その他製品	1,029	16.4	897	17.2	▲132	▲12.8
製品売上高計	6,295	100.0	5,218	100.0	▲1,078	▲17.1

製品別売上高

コンデンサ (前期比▲27.6%)	<ul style="list-style-type: none">• チップ積層セラミックコンデンサ：すべての用途で大幅に減少• 用途特化型品：PC及び関連機器向けで大きく減少
圧電製品 (前期比▲17.7%)	<ul style="list-style-type: none">• 表面波フィルタ、セラミック発振子、セラミックフィルタ、圧電センサ：通信機器向け、PC及び関連機器で大幅に減少• 圧電ブザー：AV機器向けで大幅に伸長
高周波デバイス (前期比+4.6%)	<ul style="list-style-type: none">• 近距離無線通信モジュール：無線LANモジュールが大幅に伸長• 多層デバイス、アイソレータ：通信機器向けで大幅に減少
モジュール製品 (前期比▲17.9%)	<ul style="list-style-type: none">• 回路モジュール：携帯電話用の地上デジタルチューナが大幅に増加、通信機器用モジュールが大きく減少• 電源：AV機器向け、通信機器向けで大幅に減少
その他製品 (前期比▲12.8%)	<ul style="list-style-type: none">• EMI除去フィルタ：AV機器向け、PC及び通信機器向けで大幅に減少• ジャイロセンサ：AV機器向けで大きく減少• チップコイル：通信機器向けで減少

用途別売上高推移

(億円)



用途別売上高(2008年度通期)

	2007年度 通期		2008年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
AV	943	15.0	755	14.5	▲187	▲19.9
通信	2,523	40.1	2,271	43.5	▲252	▲10.0
PC及び関連機器	1,367	21.7	1,011	19.4	▲356	▲26.1
カーエレ	674	10.7	540	10.3	▲134	▲19.9
家電・その他	790	12.5	641	12.3	▲149	▲18.8
製品売上高計	6,295	100.0	5,218	100.0	▲1,078	▲17.1

用途別売上高

AV機器 (前期比▲19.9%)	<ul style="list-style-type: none">• 薄型テレビ向け、DSC向け、ゲーム機向けが大幅に減少• 携帯型オーディオプレーヤー向けで大幅に増加
通信 (前期比▲10.0%)	<ul style="list-style-type: none">• 第3世代機向けに無線LANモジュールが大幅に増加• 通信機器全般にチップ積層セラミックコンデンサ、表面波フィルタが大きく減少
PC及び関連機器 (前期比▲26.1%)	<ul style="list-style-type: none">• すべてのセットで大幅に減少
カーエレ (前期比▲19.9%)	<ul style="list-style-type: none">• カーオーディオ向け、ソナー向け、RKE向けが減少

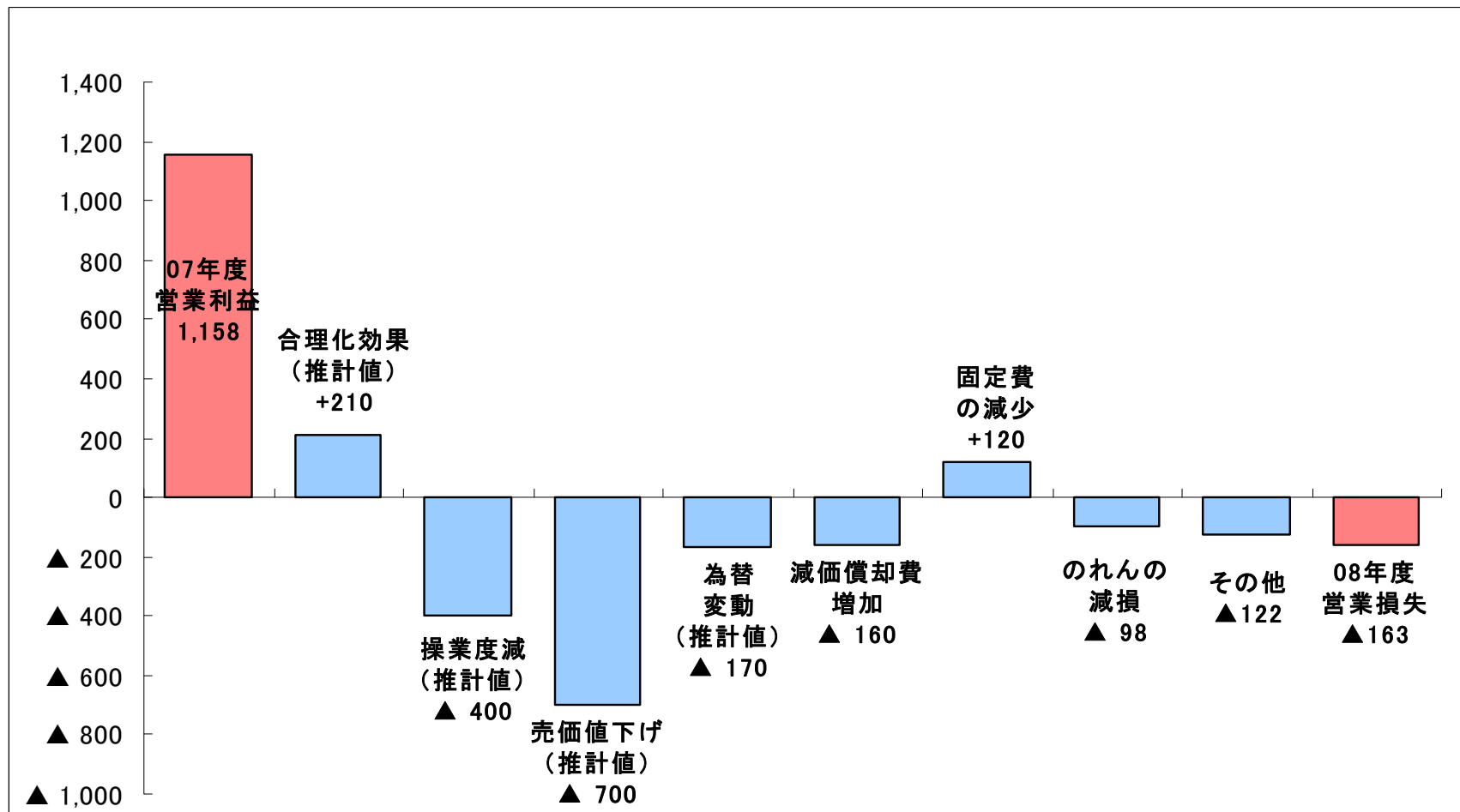
※RKE:リモート・キーレス・エントリー

業績概況(2008年度通期)

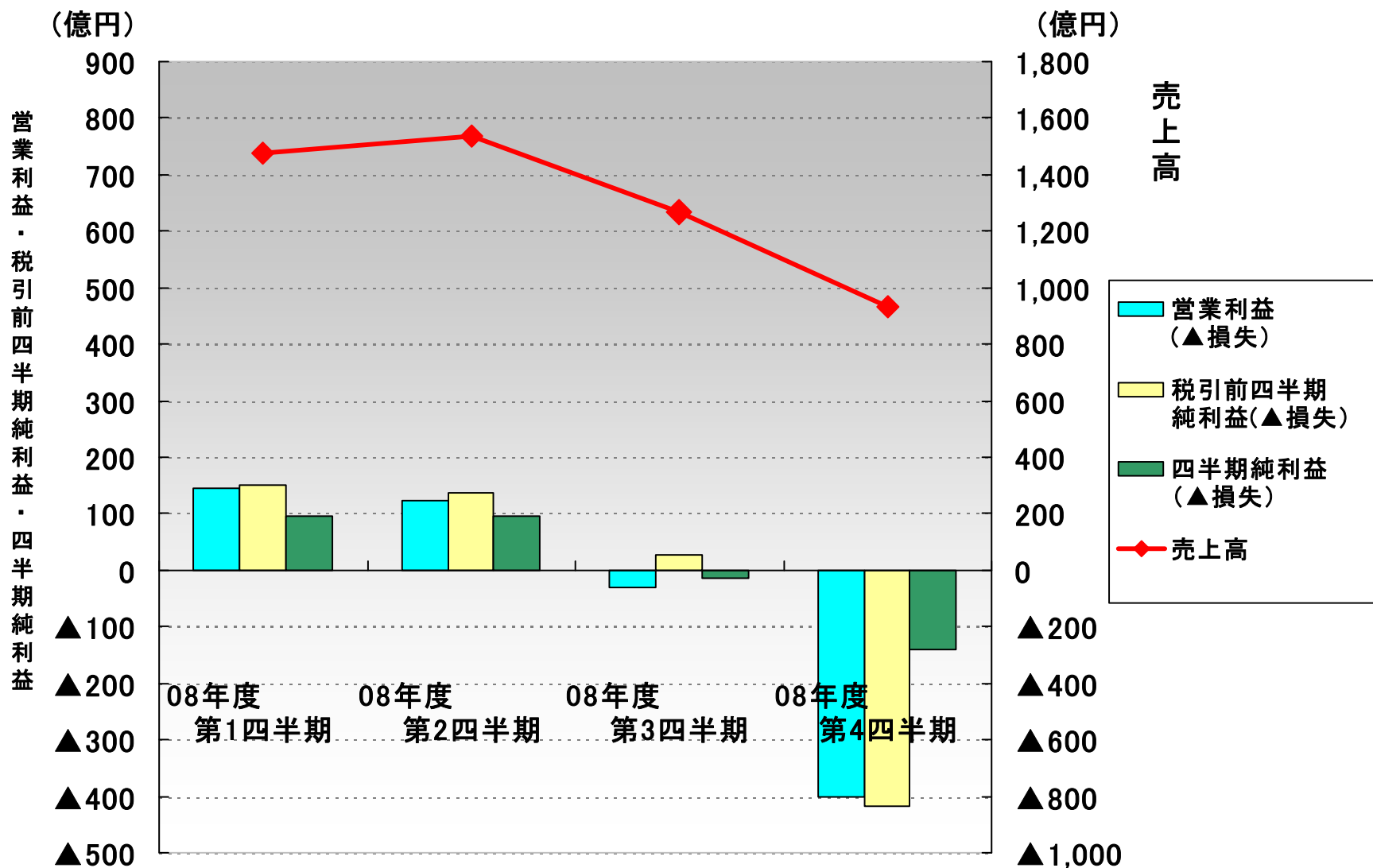
	2007年度 通期		2008年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	6,317	100.0	5,239	100.0	▲1,077	▲17.1
営業利益 (▲損失)	1,158	18.3	▲163	▲3.1	▲1,320	—
税引前利益 (▲損失)	1,218	19.3	▲103	▲2.0	▲1,321	—
当期純利益	774	12.3	36	0.7	▲738	▲95.4

2008年度営業利益変動要因

(億円)



業績概要



業績概況(2008年度第4四半期)

	2007年度 第4四半期		2008年度 第4四半期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	1,521	100.0	931	100.0	▲590	▲38.8
営業利益(▲損失)	215	14.1	▲402	▲43.1	▲616	—
税引前利益(▲損失)	241	15.9	▲419	▲44.9	▲660	—
当期純利益(▲損失)	159	10.4	▲141	▲15.2	▲300	—

	2008年度 第3四半期末		2008年度 第4四半期末		増減	
	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
期末たな卸残高	1,179	941	▲238	▲20.2		

2. 2009年度 業績予想

(2009年4月～2010年3月)

部品需要予測

携帯電話

12.6億台(2008年度) → 12.4億台(2009年度)

	2008年度			2009年度前提			(億台)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期伸率
部品需要台数	7.0	5.7	12.6	5.9	6.5	12.4	-1%

(※当社推定値)

PC

2.8億台(2008年度) → 2.8億台(2009年度)

	2008年度			2009年度前提			(億台)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期伸率
部品需要台数	1.6	1.2	2.8	1.4	1.4	2.8	-1%

(※当社推定値)

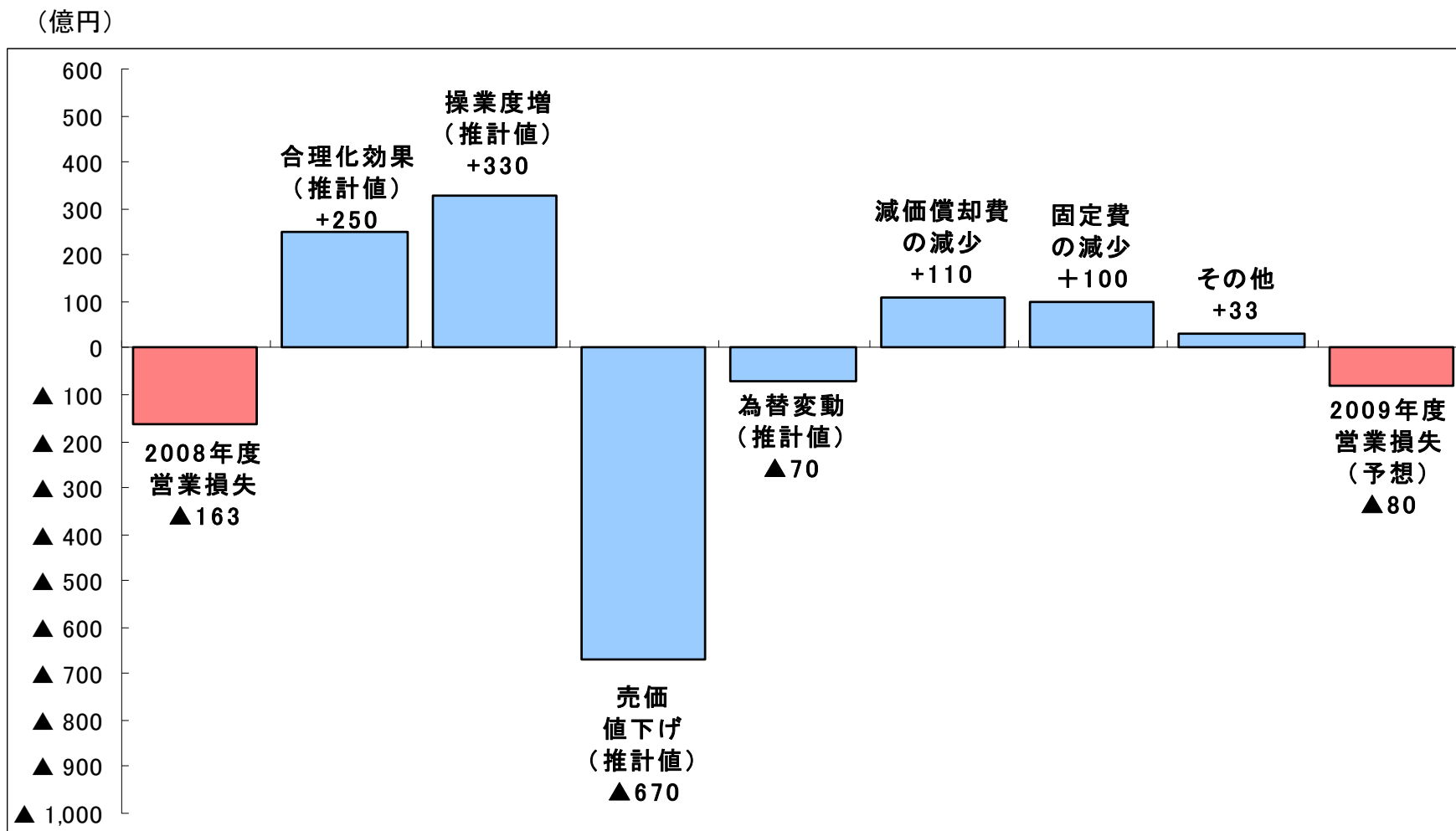
2009年度の業績予想

	2008年度 実績		2009年度 通期予想				増減	
	金額	構成比	上期 予想 金額	下期 予想 金額	金額	構成比	金額	伸率
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)		(億円)	(%)
売上高	5,239	100	2,350	2,550	4,900	100	▲339	▲6.5
営業利益 (▲損失)	▲163	▲3.1	▲80	0	▲80	▲1.6	+83	-
税引前利益 (▲損失)	▲103	▲2.0	▲60	20	▲40	▲0.8	+63	-
当期純利益 (▲損失)	36	0.7	▲30	10	▲20	▲0.4	▲56	-

※四半期別売上高

Q1:1,160億円、Q2:1,190億円、Q3:1,370億円、Q4:1,180億円

2009年度業績予想 利益変動要因



製品別売上予想

	2008年度実績 (前期比)	2009年度予想 (前期比)
コンデンサ	▲27.6%	▲12%程度
圧電製品	▲17.7%	▲3%程度
高周波デバイス	+4.6%	▲3%程度
モジュール製品	▲17.9%	▲3%程度
その他製品	▲12.8%	▲5%程度

用途別売上予想

	2008年度実績 (前期比)	2009年度予想 (前期比)
AV	▲19.9%	▲12%程度
通信	▲10.0%	▲3%程度
PC及び関連機器	▲26.1%	▲7%程度
カーエレ	▲19.9%	▲7%程度
家電・その他	▲18.8%	▲10%程度

業績予想の前提

	2008年度 実績	2009年度 予想
減価償却費	810億円	700億円
研究開発費	468億円	435億円
設備投資額	654億円	220億円
為替レート(US\$)	100.54円/US\$	95.00円/US\$

収益改善策

営業利益改善のための施策

単位：億円

	年間効果額 (最新見通し)	改善効果内訳(概算)		
		08F	09F	10F
派遣・請負人員の削減	240	40	200	
人件費・経費・生産関連費用の削減	170	55	100	15
減価償却費の低減	100	-10	110	
その他	30		10	20
固定費の削減	300	45	220	35
合計	540	85	420	35

※派遣・請負人員の削減 (08年9月末実績→09年3月末実績)

・国内 4,000名 ・海外 500名

2009年度(10年3月期)の配当(予定)
1株当たり年間70円(うち中間配当35円)

2008年度(09年3月期)の配当
1株当たり年間100円
(中間配当50円/期末配当予定50円)

※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。